第1.0 版（2026 年 9 月 18 日作成）

NCNP ブレインバンクに寄託された方のご遺族へ

このたび、ＮＣＮＰ臨床検査部においてブレインバンクに登録された方の検体、および診療情報等の一部について、下記の研究に対し提供を行います。この研究では、国が定めた倫理指針に基づき、対象となる方お一人ずつから直接同意をいただくかわりに、利用目的等を含む研究の実施について、情報を公開いたします。

この研究に対し検体や診療情報等を利用することにより、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ございませんが、対象となる方の検体や診療情報等を利用・提供して欲しくない場合は、問い合わせ窓口までご連絡ください。なお、利用・提供してほしくないと申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはございません。

「老齢マーモセットを用いた神経変性疾患に関連する病理学的検討」

1. 対象となる方

2009 年 4 月より 2026 年3月までの間に、国立精神・神経医療研究センター病院で病理解剖され、ご遺族が NCNP ブレインバンクでの剖検検体の保管および研究使用に関して同意された方の中から、死後の病理学的解析によりアルツハイマー病あるいはパーキンソン病、または顕著な精神・神経疾患なしと診断された方

2. 研究の期間

研究倫理審査委員会承認後 ～ 2028 年 3 月まで

【研究代表者】 公益財団法人実中研 高次生理学研究部門 佐々木えりか

【研究責任者】 国立精神・神経医療研究センター 病院臨床検査部 高尾昌樹

3. 研究目的および意義

マーモセット(Callithrix Jacchus)は老化が比較的早く、ヒトと近縁な霊長類であることから、加齢性神経変性疾患のモデル動物として近年注目されています。アルツハイマー病に関連する神経原線維変化（NFT）およびパーキンソン病に関連するレビー小体の有無を評価するには、リン酸化タウやリン酸化αシヌクレインを標的とした免疫染色に加えて、特殊染色であるガリアス染色(Gallyas staining)を用いる必要があります。マーモセットにおいてこれらの染色法で反応性や特異性を確認するためには、適切な陽性コントロールが必要ですが、マウスモデルは、ヒトと同様の NFT やレビー小体を形成しないため、霊長類の脳病理との比較には適していません。本研究では、ヒト脳切片を陽性コントロールとし染色条件を検討することにより、非ヒト霊長類であるマーモセットの老齢個体を用いて、加齢に伴う脳内の病理学的変化、とくにアルツハイマー病に関連する NFT およびパーキンソン病に関連するレビー小体の有無を評価する方法を確立することを目的としています。

4. 研究の方法

パラフィンブロックより薄切試料を作成して実中研に送り、実中研において、染色法の検討を行います。ヒト試料を陽性コントロールとして、老齢マーモセット脳について調べます。

試料・情報の種類

試料：脳、脊髄のパラフィン切片

(取得方法)剖検時にご遺族の同意のもとに取得

情報：付随する情報（年齢、性別、死後時間、診断名、病理解析結果など）

(取得方法) 診療録から入手

6. 共同研究機関

国立精神・神経医療研究センター　　研究責任者：高尾昌樹

公益財団法人実中研 高次生理学研究部門　佐々木えりか

7. お問い合わせ先

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下記問い合わせ担当者までお問い合わせください。

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

所属：臨床検査部　NCNP ブレインバンク

氏名 高尾昌樹

電話番号：042−341−2711（代表）